

平成27年度知多地区学校図書館研究会第3回研究会



平成28年1月29日(金)、愛知県立半田農業高等学校にて今年度3回目の地区図書館研究会が開催されました。

今回は、精文館書店員である久田かおり氏を講師にお招きし、書店で人気のある本の傾向や本を求めに来る高校生の現状など、非常にわかりやすくお話しいただきました。

久田氏は、仕事として毎月15～20冊近くは読むそうですが、フリーペーパーに紹介する本については、あくまで自分の熱い思いを大事にしているそうです。課題図書についてもあまり受けが良くないことがあって、オリジナルの課題図書を選定して特集しているそうです。手作りのポップなども見せていただきましたが、好きだからこそできる、好きでなければできないことだなあと感じました。

中高生向け 勝手に課題図書新聞 Vol.5

『紙つなげ!』 黄らが本の紙を通して
2011年3月11日、東日本大震災によって壊滅的状況に陥った製紙工場。生きること必死で、誰もが工場閉鎖を覚悟した。そんな絶望から、奇跡のような復活を成し上げた男たちの記録。胸のめいこと、そして忘れないこと。

『水戸黄門のぼく』
『水戸黄門のぼく』 仁木英之(角川春樹事務所)
映画にもなった『ゴールデンボンバー』(ジャマイカポプスレー・競技)のような笑えて泣ける王道青春スポーツ小説!と思いきや!! 常夏の島でスキー部を作ろうとする変な少年。なぜ?なんのために?その秘密が明らかになる時...

『これからの誕生日』 藤原明(双葉社)
交通事故でたった一人生き残った主人公。どうしようもない罪悪感に苛まれる中、周りの目は同情から好奇へ、そして非難と憎悪へと変わっていく。大切なヒトを亡くしたときに、誰もが思う、たくさんの「なぜ?」自分を責める主人公と、彼女の周りには6人の視点で描かれる連作短編集。
絶望の中から抜け出す一歩を、恋しみの線から前へと進む力を、共に味わいたい。

『腐る経済』 田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」渡邊穂(幻冬舎)
岡山の片田舎で400円もするパンを売っているお店での、マルクスの教えと天然菌によって生み出される「腐る経済」に基づいた自然な暮らし。だれもかれもがこの生活を真似することはできないだろうけど、こういう暮らしもちゃんと成り立つのだ、と知ることはとても大切。
地元竹とお米と水でなければ育たない菌があり、数百年の古民家だからこそ作れないパンがある。

『アップルソング』 小千穂ひづる(ポプラ社)
戦争の真実の中から救い出された主人公の人生はそのままだが日本の戦後の歴史と、世界の戦争の記録であった。カマランとして人間の善さを繰り返し続けた彼女が心から求めているのが「愛」だということがい。フィクションとは思えないリアリティ!

ちょっとイケてる読書感想文を書いてみるみる?

まずは、
その1 本の選び方:
今の自分が興味を持っているモノや自分に近いモノを選ぶのはいいけど、ただ読んで面白くても面白くないモノや自分の好みとはかけ離れたモノを選んでみるのも、意外と感想を書きやすいのでオススメ。

その2 読み方:
本を読みながら付箋をべたべたと貼っていく。気になる言葉、気になる登場人物が出てきたら必ず書き留めよう。
いらない付箋ははがせばいいのだから、どんどん貼っちゃえ!
そしてそのときに付箋に何かをメモしておくことで整理が楽になる。例えば「すごい!」「笑!」「コイツ嫌い!」とか「ありえねえ」とか。

その3 読み方:
読み終わったら必ず本を閉じて深呼吸。本の後味を楽しむことも大切。難しい言葉で書くと「余韻に浸る」ってやつですな。
じんわりと余韻に浸ったらおもむくには本を手にとって付箋の貼ったページを読み直す。

その4 読み方:
付箋の貼ったところを読み直しながら、自分がどうしてそこに付箋を貼ったのかを考える。考えながらその中で一番心にひかれたりあるところを選ぶ。
どうしてそこに心がひかれたのか、何が心に響いたのか、そしてそれと自分は似ているのか、全く逆なのか、思いつくことを思いつくままに紙に書き出す。たとえば...
* コロコロコロコロってあんなに分厚いのになんであんなに軽いんだろう。
* 変な大島でジャンプ競技なんてどう考えても無理でしょ? 水泳でいいんじゃないの?
* 安くいつまでもカビの生えないパンが出来たら便利でしょ? マルクスって意味不明。

その5 書き方:
まずは書き出しに結論を書いちゃえ! とりあえずあらすじを...なんてセコいことは考えなくてよし。
本について一番書きたいことをまず書く。そしてその後はひたすら自分の事について書きまくれ! 貼った付箋に書いた言葉、そのときの気持ちを盛り込みながら自分と本の共通点もしくは全く逆な点を書いていく。すると生き生きとした素晴らしい感想文(?)になるに違いない!

さあ、みなさん、用意はいいですかー!
この夏は、面白い本をたくさん読んで自分にとってサイコーの一冊を選んで。

今年の読書感想文はイケてるものが出来上がるに違いない! ?

(精文館書店中島駅前店 ひきだ)

今年もやってきましたね、読書感想文の季節。
夏休みのラスト2日に本屋さんへ駆け込まずともすむように今から準備しようぜ!

また、高校生に限らず、最近人気の本はライトノベル、いわゆる「ラノベ」だそうで、確かにラノベは普通の本を10冊に薄めたような、似たような話が延々と続く内容なのかもしれないが、学校図書館で「ラノベ禁止」としてしまうと、本を読む機会を減らしてしまう

のではないかと、まずはラノベからでも、本を手にとってもらうことが大事なのではないかと
おっしゃっていたのが印象的でした。



質疑応答の時間では、ポップ作りのコツや、展示の工夫、棚のメンテナンスの方法など、
学校図書館においてもあてはまりそうなヒントを多数教えていただきました。

〔話題に上がった本〕

- ・ 本屋大賞の本（ノミネート作も）…『君の臓腑を食べたい』（住野よる、双葉社）
『羊と鋼の森』（宮下奈都、文藝春秋）
- ・ 『THE BOOKS green』→中高生に読んで欲しい本を書店員365人が1冊ずつ紹介している。別バージョン「白」は大人向け。